日本語と中国語とで字順の逆転する二字漢語
—日本語の漢語が中国語で逆転するものを中心に—

馬　雲

0.　はじめに

現代日本語の中に「液体–体液」「会議–議会」のように字順の逆転する二字漢語が存在している。中国語にもこの二組の漢字語彙がある。また、日本語には「改変–変改」「習慣–慣習」という字順の相反する漢字語彙があるが、中国語には「改変」「習慣」しかない場合もある。同じく、中国語には「回収–収回」「期限–限期」のように逆転現象があるが、日本語には「回収」「期限」しかない場合もある。辞書を調べた際、中には字順の同じものもあれば、字順が逆の組み合わせになっているものもある。同じ字順で書かれていても、日本語としての意味と中国語の意味が常に同じであるとは限らず、更に逆の場合もあり、それぞれの意味関係は複雑である。

日本語の字順の逆転現象につていの研究は江戸時代からいろいろなされている（鈴木 1986 ; 荒川 1997 など）。中国語の字順の相反する漢字語彙について扱った論稿もたくさんある。しかし、中国語と日本語における字順の逆転現象に関する対照研究は、管見の限り僅かである。

そこで、本稿は日中対照研究の観点から、両言語における字順の相反する二字漢語の中から日本語の漢語に軸を置き、その字順と相反する中国語を抽出し、基礎資料としてその数がどのくらい存在するかについて調査した上で、日本語の漢語が中国語で逆転する二字漢語に限定し、同じ漢字を使って、字順が逆になることで、両言語の間での相違について分析することを目的とする。

1.　先行研究とその問題点

1.1　字順の逆転する日中両言語の分類

竹中（1988）は、『常用同素反序詞辨析』、『漢語詞匯的統計分析』を基礎にして、『日本語国語大辞典』・『漢和大辞典』によって確認し、日本語と対応する中国語を任意に抜き出している。竹中（1988）では二字漢語の語順の逆転する分類としては、（イ）日本語・中国語の両方に逆転現象のあるもの、（ロ）日本語には逆転現象があるが中国語にはないもの、（ハ）中国語には逆転現象はあるが日本語にはないもの、（ニ）日本語に対応する中国語が逆転するもの、と分けられている。中国語と日本語の字順の逆転現象を調べ、典型例の検討を通じて逆転原因を探った。

1.2　漢語の意味を分析する際の分類方法に関する先行研究

日中両言語の漢語をさまざまなタイプに分類し、一つ一つの漢語の意味範囲や用法の違いなどを究明する研究として文化庁（1978）が挙げられる。具体的には日本語教育において初中級の段階によく出てくる漢字音読語 1882 語を取り出し、『現代中日辞

典』と『現代日中辞典　増訂版』の二つの辞書を使用し、意味を調べ比較した。その結果、以下のように「S」・「O」・「D」・「N」の４種類に分類されている。

S(Same)：日中両国語における意味が同じか、または、きわめて近いもの。

O(Overlap)：日中両国語における意味が一部かさなってはいるが、両者の間にずれのあるもの。

D(Different)：日中両国語における意味が著しく異なるもの。

N(Nothing)：日本語の漢語と同じ漢字語が中国語に存在しないもの。

1.3　二字漢語の結合パターンと意味用法について

鈴木（1986）では、明治初期に刊行された五冊の漢語辞書から恣意的に字順転倒の二字漢語（100 対）を抽出し、語彙表を作り、二字漢語の性格と意味的結合パターンについて分析している。二字の漢字の結合パターンとしては同義的、対義的、客体関係と補足関係、修飾関係と主述関係に分けている。また、字順が逆転しても、両語形の間に際立った意味の違いは認めがたく、語彙表にあげたものも意味がほとんど同じであると述べている。ただし、「移転・転移、隔離・離隔」などは前者が自動詞的で、後者が的という違い、「困窮・窮困、実情・情実」との間に日常語と文章語というような文体特徴の違いを認めている。

1.4　先行研究の問題点

竹中（1988）の日中両言語における字順の逆転する現象に関する分類は、日本語内部における逆転現象と中国語の中における逆転現象という分類がないので、不十分だと考えられる。また、逆転する原因を探る方法としてはいくつか典型的な例を挙げて説明したが、両言語を比較する際、網羅的、かつ、客観的に言葉を抽出し、分析する必要があると考える。分類研究（文化庁 1978）は意味を基準にして分類しているが、30 年以上も経った現在から見ると、漢語の意味が変化した場合もあり、改めて検討する必要があると考えられる。鈴木（1986）では字順が逆転しても、品詞と文体特徴の違いを除き、両語形の意味がほとんど同じであると述べているが、「社会・会社」のように字順が逆転して、意味が全く異なってくる例は多くあると考えられる。

2.　研究方法

中国語と日本語における字順の逆転する二字漢語を網羅的かつ客観的な研究はあまり見られない。本稿は辞書を使用し、悉皆調査を行う。

2.1　使用辞書と辞書選定の理由

原則として日本語は『岩波国語辞典』第七版新版（岩波書店）（以下『岩波』と略す）を使用し、中国語では中国で作られている『現代漢語詞典』第６版（商務印書館）を使用した。また、客観性を高めるために『新選国語辞典』（小学館）、『新華漢語詞典』最新修訂版（商務印書館）、などをもあわせて参照した。『岩波』は 2011 年に出版され、

比較的新しい辞書である。加えて、採録語が現代生活に必要なものという観点から厳選され、時代と共に変遷した言葉の語義まで記載されているのが特徴である。これが『岩波』を選定した理由である。『現代漢語詞典』は 1978 年に初版が出版されてから中国の学校教育に大きく貢献し、中国語の辞書としては初めて品詞が表示されているという理由で使用辞書として選定した。

3.　調査

3.1　調査対象

日本語の二字漢語を抽出する際、調査対象とする二字漢語のペアの絞り方については、以下のように設定した。

ア、同形であるが読み方が違い、そして二つの見出しを持ち、その使用に際して意味や位相等の相違が認められるものは、それぞれ別のものとして扱った。

例：音声（おんせい）、音声（おんじょう）　　礼拝（れいはい）、礼拝（らいはい）

イ、同形で読み方が違い、二つの見出しを持つが、一方が空見出しとなっているものは、本見出しのみを対象とした。

例：客観かっかん　　きゃっかん→客観きゃっかん
　　情人じょうじん　　じょうにん→情人じょうじん
　　実名じつめい　　じつみょう→実名じつめい
　　識見しきけん　　しっけん　→識見しきけん

ウ、同義で二つの書き方や書き換え語を持つものは一つに統一した。

例：峻嶮　峻険→峻険

エ、はっきり当て字とわかるものは除いた。

例：数奇（すき）　　達示（たっし）

オ、人名・地名・書名・元号などの固有名詞を除外した。

例：端木（中国語）

このような作業規則に基づき、採集作業を行った。

3.2　分類方法と本稿の研究対象

調査した範囲で抽出した二字漢語を以下のように分類する（表１）。二字の漢字をそれぞれ A、B とすると、AB、BA という字順の相反している二つの語形をとる。比較の便宜上、中国語も日本語の漢字字体を用いることにする。

a. 中国語と日本語の両方に逆転現象のあるもの。
b. 日本語には逆転現象があるが、中国語には一方しかないもの。
c. 中国語には逆転現象があるが、日本語には一方しかないもの。
d. 日本語には両方あるが、中国語にはどちらもないもの。
e. 中国語には両方あるが、日本語にはどちらもないもの。
f. 両方とも一方しかないが字順が逆転するもの。

g. 中国語と日本語の字順が同じであるもの。
h. 日本語だけにあるもの。
i. 中国語だけにあるもの。

表１　日本語・中国語間での二字漢語の分類（筆者作成）

	日本語	中国語	例	
			日本語	中国語
a	AB　BA	AB　BA	愛情　情愛	愛情　情愛
b	AB　BA	AB	階段　段階	階段
c	AB	AB　BA	相互	相互　互相
d	AB　BA		語類　類語	
e		AB　BA		愛心　心愛
f	AB	BA	胃腸	腸胃
g	AB	AB	英明	英明
h	AB		暗涙	
i		AB		時尚

g. h. i は逆転現象とかかわらないため、研究の対象外とする。a〜e は字順の逆転現象とかかわるが、別稿で論じる。なお、本稿の対象になる逆転する二字漢語は、ｆ日本語と中国語両方とも一方しかないが字順が逆転するものに限定し、考察を行った。

3.3　意味分類

字順の相反する二字漢語のすべての組が、必ずしも同義であるというわけではない。同一の漢字が用いられているから、ほぼ同義であるように思われがちであるが、一字一字の漢字の意味が字順によって異なっている場合もある。意味関係については、個人の主観に依存するところが大きいので、その分類に当たっても、研究者によって異なるが、筆者は辞書の記述により判断し、分類した。

本稿はｆに属する二字漢語 346 組の意味を一語ずつ分析した。これらの意味については以下の手順を踏まえて処理を行った。中国語の意味を調べる際には、『クラウン中日辞典』に載っておらず、『現代漢語詞典』に載っている言葉を筆者が『現代漢語詞典』に記載されている中国語の意味を参考にして翻訳した。また、二つの辞書の記載が異なる場合、中国で出版された辞書を基準にしてまとめてみた。

ｆの意味分類としては、文化庁（1978）の分類方法を参考にし、以下のように区分する。

Ｓ．日中両国語における意味が同じか、または、きわめて近いもの（以下「同義」とする）。
例：日本語　貸借：かしかり。簿記で、貸方と借方。（『岩波』）

中国語　借貸：a.（金や物の）貸し借り。
b. 帳簿上の貸し方と借り方。（『クラウン中日辞典』）

この場合は、日本語の「貸借」と中国語の「借貸」の意味が同じまた近いものと認められるため、このような言葉をＳに分類する。

Ｏ．日中両国語における意味が一部重なってはいるが、両者の間にずれのあるもの（以下「部分重複」とする）。

例：日本語　装着：衣類などを身に纏うこと。更に広く、付属品類を本体に取り付けること。（『岩波』）
中国語　着装：a. 服を着たり、靴などを履いたりすること。
b. 服装（『現代漢語詞典』第６版の解釈を訳した）

日本語と中国語両方とも「衣類等を身にまとう」という意味があるが、日本語の「装着」には「付属品を本体に取り付ける」という中国語の「着装」にない意味もある。中国語の「着装」には「服装」という日本語の「装着」にない意味がある。このような種類の言葉をＯに分類する。

ＳＵ．一方が他方を包摂するもの（以下「包摂」とする）。更にⅠ日本語の意味範囲のほうが広いものとⅡ中国語の意味範囲のほうが広いものに分ける。

例：日本語　時報[1]：a.（ラジオなどで）正確な時刻を知らせること。
b. その時々の報知。また、それを掲載する雑誌類。（『岩波』）
中国語　報時：時刻を知らせる。（『クラウン中日辞典』）

日本語の「時報」は「正確な時刻を知らせること」の意味以外、「その時々の出来事などの報知」という意味もある。この種類の言葉をＳＵＩに分類する。

例：日本語　売買：売り買い。売ったりかったりすること。
中国語　買売：①売り買いをする。取引をする。②商売

中国語の「買売」は「売り買い」の意味以外、「商売」という意味もある。中国語における意味用法の範囲が広いため、こういう種類の言葉をＳＵⅡに分ける。

Ｄ．日中両国語における意味が著しく異なるもの（以下「異義」とする）。

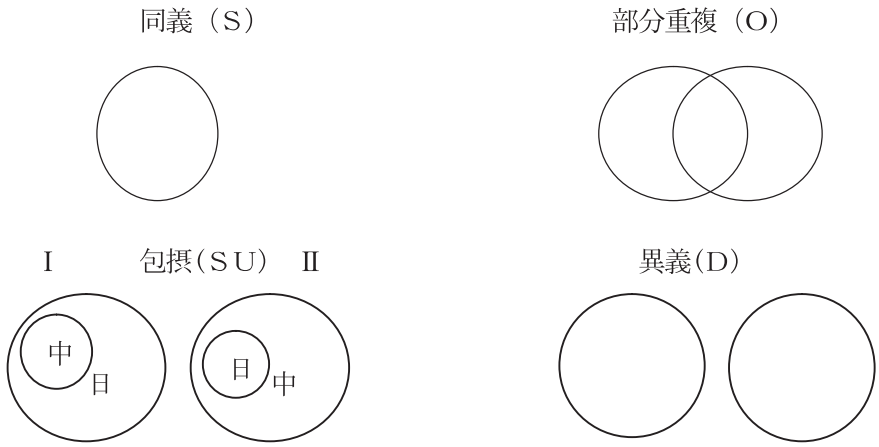
例：日本語：絶叫：ありったけの声を出して叫ぶこと。（『岩波』）
中国語：叫絶：絶賛する。喝さいする。（『クラウン中日辞典』）

この場合は、日中両国語での意味が著しく異なるため、日本語の漢語を中国語の知識で理解すると、誤解を招きかねないと考えられる。そこで、この種類の言葉をＤ類としえ捉える。

これらを図示すると、以下のようになる。

[1]香港、台湾では用いられるが、大陸では使用されない。

図１　意味関係の分類



4. 分析

抽出した日本語の漢語が中国語で逆転する二字漢語の数を表２にまとめた。表２から分かるように、全部で 346 組が抽出され、その中、「S」に属する二字漢語が 106 組で 31%を占め、「O」に属するのが 34 組で 10%を占め、「SUⅠ」に属するのが 21 組で 6%を占め、「SUⅡ」に属するのが 28 組で 8%を占め、「D」に属する語が最も多く、157 組で 45%を占める。

表２　逆転する二字漢語間の意味関係

	合計	S	O	SUⅠ	SUⅡ	D
語彙数	346 組	106 組	34 組	21 組	28 組	157 組
比率（%）	100	31	10	6	8	45

荒川（1997）は二字漢語の字順転倒について、幕末明治初期に、洋書和訳作業の必要に応じて、日本の洋学者たちが中国語の古典や漢訳書から既存語を取り入れ、意味を変えずに字順だけを転倒させ、新造訳語として使い始めた可能性が高いとしている。鈴木（1986）では字順が逆転しても、品詞と文体特徴の違いを除き、両語形の意味がほとんど同じであると述べている。即ち、荒川、鈴木の主張は意味に変化がなく字順だけ転倒した語彙についてのみ説明している。しかし、表２から分かるように、日本語の二字漢語が中国語で逆転する場合、意味が共通するものは 31%を占め、意味が異なるものが一番多く、半分近く占めている。このことから、日本語内部における字順の逆転現象と違い、日本語と中国語の間での字順が逆転する場合、意味が大きく変わると言えよう。

表３　品詞性が異なる語彙数

	Ｓ	Ｏ	ＳＵⅠ	ＳＵⅡ	Ｄ
語彙数	106 組	34 組	21 組	28 組	157 組
品詞性が異なる語彙数	69 組	23 組	12 組	16 組	81 組

表３から分かるように、「Ｓ」に属する 106 組の二字漢語の中で両言語の品詞性が異なるのは 69 組あり、「Ｏ」には 23 組あり、「ＳＵⅠ」には 12 組あり、「ＳＵⅡ」には 16 組あり、「Ｄ」には 81 組ある。品詞の違いは意味のずれが生じる原因の一つである。意味が同じであっても、品詞性が違うと、誤用が生じやすいため、品詞性の相違を明らかにする必要があると考える。

4.1　Ｓに属する二字漢語の品詞性についての分析

表４　Ｓに属する二字漢語の品詞性の異同

日本語＼中国語		名詞	名詞・動詞	形容詞	動詞	副詞
名詞		33	2	3	10	0
名詞	名詞・他サ	0	4	0	20	0
	名詞・自サ	1	0	2	12	0
	名詞・自他サ	0	0	0	7	0
名詞・形容動詞		0	0	9	1	0
名詞・副詞		0	0	0	0	1
形容動詞		0	0	1	0	0

（表の中にある「他サ」は「サ変他動詞」の略、「自サ」は「サ変自動詞」の略、「自他サ」は「サ変自動詞他動詞」の略である。以下同じ）

表 4 から分かるように、Ｓに属する二字漢語の中で、品詞性が一致する語彙は 37 組で、その中の 33 組が名詞であり、4 組が名詞・動詞である。

①胃腸–腸胃（名詞–名詞）（左側は日本語、右側は中国語、以下略す）

日：胃と腸。また、消化器。

中：（医学）胃腸、人の消化器。

日本語の意味と中国語の意味が同じであり、品詞性も同じく名詞である。

これと同じ用例は以下で示す。

液汁–汁液　堰堤–堤堰　応報–報応　学才–才学　紀伝–伝紀　炬火–火炬
勲功–功勲　工員–員工　誤脱–脱誤　誤謬–謬誤　歯牙–牙歯　士爵–爵士
氏名–名氏　習癖–癖習　水魚–魚水　水薬–薬水　性癖–癖性　層雲–雲層
瘡毒–毒瘡　属僚–僚属　敵前–前敵　徒党–党徒　病弊–弊病　巫女–女巫

文範–範文　変災–災変　謀計–計謀　毛根–根毛　騾馬–馬騾　論策–策論
金泥–泥金　誤謬–謬誤

②慰安–安慰（名詞・他サ–名詞・動詞）
日：慰安　慰みをして心を休ませること。
中：安慰　慰める。安心させる。心安らかな様子。
日本語の意味と中国語の意味が同じであり、品詞性も同じく名詞と動詞である。他に「制限–限制　貸借–借貸　探偵–偵探」がある。
意味は同じであるが、品詞性が異なる語彙が 69 組で、以下の表のようになる。

表 5　Sに属する品詞性の異なる語彙例

日本語の品詞性		中国語の品詞性	語彙例
名詞	他サ	動詞	運搬–搬運　管掌–掌管　検屍–屍検　献呈–呈献　攻囲–囲攻 購求–求購　賞賛–賛賞　植栽–栽植　窃盗–盗窃　送呈–呈送 短縮–縮短　読誦–誦読　難詰–詰難　伐採–採伐　抱擁–擁抱 誘引–引誘　例示–示例　購求–求購　濾過–過濾　慰撫–撫慰
	自サ	動詞	姦通–通姦　感銘–銘感　結審–審結　習熟–熟習　心労–労心 溯上–上溯　病臥–臥病　面会–会面　離脱–脱離　離叛–叛離 鬱積–積鬱　去来–来去
	自他サ	動詞	決潰–潰決　展延–延展　露呈–呈露　畏敬–敬畏　制限–限制 貸借–借貸　探偵–偵探
名詞		動詞	凶行–行凶　倦厭–厭倦　詐欺–欺詐　事犯–犯事　守株–株守 受忍–忍受　年賀–賀年　比倫–倫比　牧畜–畜牧　解離–離解
名詞・形容動詞		形容詞	頑冥–冥頑　恭謙–謙恭　峻厳–厳峻　暗黒–黒暗　緩徐–徐緩 艶美–美艶　雑乱–乱雑　爽涼–涼爽　静粛–粛静
名詞		形容詞	義侠–侠義　酸鼻–鼻酸　恐惶–惶恐
名詞		名詞・動詞	脅威– 威脅　電閃–閃電
名詞・自サ		形容詞	熱狂–狂熱　老衰–衰老
名詞・自サ		名詞	紛糾–糾紛
名詞・形容動詞		動詞	従順– 順従
形容動詞		形容詞	雑駁–駁雑
名詞・副詞		副詞	常時–時常

意味が同じであっても、品詞性が異なると、用法なども違ってくるので、注意すべきである。

4.2　Oに属する漢字語彙についての分析

Oに属する語彙は34組で、品詞性が一致する語彙は11組で、その中の10組が名詞であり、1組の「装着–着装」だけが名詞・動詞である。

日：素因　ある結果を生ずる元。原因。（医学）その病氣にかかりやすい素質。

中：因素　構成要素。要因。

両言語とも「原因」という意味があるが、日本語の「素因」は中国語の「因素」にない「その病気にかかりやすい素質」という意味もある。また、中国語の「因素」は「構成要素」という意味もある。

これと同じ用例は以下で示す。

教職–職教　径路–路径　佐官–官佐　首魁–魁首　呪符–符呪　食膳–膳食
期日–日期　文語–語文　楼門–門楼

品詞性がそれぞれ異なる語彙は23組で、表で表すと以下となる。

表6　Oに属する品詞性の異なる語彙例

日本語の品詞性		中国語の品詞性	語彙例
名詞	他サ	動詞	押収–収押　改修–修改　急告–告急 視診–診視　買収–収買
	自サ	動詞	見参–参見　減衰–衰減　反逆–逆反 抱合–合抱　露顕–顕露
	自他サ	動詞	解消–消解
名詞		動詞	航続–続航　重宝（じゅうほう）–宝重 跳弾–弾跳　賓礼–礼賓　別辞–辞別
名詞		名詞・動詞	蕃塀–塀蕃
名詞・自サ		形容詞	切迫–迫切
名詞		形容詞	保安–安保　紡毛–毛紡　猛威–威猛
名詞・自他サ		動詞・副詞	転倒–倒転
名詞・自他サ・形容動詞		動詞	重宝（ちょうほう）–宝重

4.3　ＳＵＩに関する漢字語彙についての分析

中国語より日本語の意味の方が広い語彙 21 組の中で、品詞性が一致する語彙が 9 組あり、すべて名詞である。

日：　主賓　来客中の一番主な人。正客。主人と賓客。

中：賓主　客と主人。

日本語の「主賓」は「主人と賓客」という意味以外に「正客」という意味もあるが、中国語の「賓主」は「主人と賓客」の意味だけである。

これと同じ用例は以下で示す。

額面–面額　気風–風気　薬湯–湯薬　市街–街市　障壁–壁障　前史–史前　洋銀–銀洋

暦日–日暦
品詞性がそれぞれ異なる語彙が 12 組で、以下の表のようになる。

表７　ＳＵＩに属する品詞性の異なる語彙例

日本語の品詞性		中国語の品詞性	語彙例
名詞	他サ	動詞	戒告–告戒　忌避–避忌　選評–評選 知得–得知　発刊–刊発　問責–責問
	自サ	動詞	随伴–伴随　駐留–留駐
名詞	他サ	名詞	施設–設施
	自サ	名詞	着衣–衣着
名詞		動詞	時報–報時
名詞		副詞	後日–日後

4.4　ＳＵⅡに属する漢字語彙についての分析

日本語より中国語の意味の方が広い語彙は 28 組で、品詞性が一致するのが 12 組ある。その中、10 組の「俗塵–塵俗　位牌–牌位　元三–三元　才人–人才　砂鉄–鉄砂　従僕–僕従　水肥–肥水　鮮魚–魚鮮　電機–機電　塁壁–壁塁」が名詞であり、「売買–買売、落着–着落」が名詞・動詞である。

品詞性の異なる語彙が 16 組で、表で表すと以下になる。

表８　ＳＵⅡに属する品詞性の異なる語彙例

日本語の品詞性		中国語の品詞性	語彙例
名詞		動詞	情動–動情　天変–変天　詠歌–歌詠
名詞	他サ	動詞	充填–填充　呪詛–詛呪　点検–検点
	自サ		検尿–尿検
名詞・他サ		動詞・形容詞	抑圧–圧抑
名詞・他サ		動詞・副詞	許容–容許
名詞		名詞・動詞	害毒–毒害
名詞		名詞・動詞・形容詞	貴顕–顕貴
名詞・自サ		名詞	失錯–錯失　談笑–笑談
名詞・形容動詞		形容詞	重厚–厚重　躁急–急躁
名詞・形容動詞		名詞・形容詞	俗悪–悪俗

4.5　Ｄに属する漢字語彙についての分析

日本語と中国語の意味が異なり、品詞性も異なる語彙が 81 組で、以下の表になる。

表９　Ｄに属する品詞性の異なる語彙例

日本語の品詞性		中国語の品詞性	語彙例
名詞	他サ	動詞	運漕–漕運　仮作–作仮　写譜–譜写　手交–交手 手抄–抄手　証印–印証　進上–上進　先占–占先 送附–附送　打撲–撲打　放下（ほうげ）–下放 乱作–作乱　放流–流放　放下（ほうか）–下放 定立–立定
	自サ	動詞	応接–接応　回折–折回　坐乗–乗坐　絶叫–叫絶 脱出–出脱　凍上–上凍　動転–転動　浮上–上浮 流入–入流
名詞		形容詞	外編–編外　口上–上口　光背–背光　紅粉–粉紅 式台–台式　緑青–青緑　娑婆–婆娑　霊水–水霊 生面–面生　当確–確当　武神–神武　藍碧–碧藍 直筆（じきひつ）–筆直
名詞	他サ	名詞	直筆（ちょくひつ）–筆直　量産–産量 了知–知了
	自サ	名詞	運航–航運　感電–電感　芸風–風芸　得心–心得 帯磁–磁帯
名詞・他サ		形容詞	強要–要強　指弾–弾指　体得–得体
名詞		動詞	合切–切合　形相–相形　工費–費工　止観–観止 秀作–作秀　手動–動手　商相–相商　賞品–品賞 旋盤–盤旋　走行–行走　台下–下台　冷製–製冷 天頂–頂天　道念–念道　難問–問難　凡下–下凡
名詞		名詞・形容詞	強豪–豪強　大老–老大　路頭–頭路
名詞・形容動詞		動詞	短気–気短　難解–解難
名詞・自サ		副詞	便乗–乗便　来日–日来
名詞・形容動詞		形容詞	急峻–峻急　同相–相同
名詞		動詞・名詞	句集–集句　属僚–僚属　廃残–残廃　暑中–中暑
形容動詞		名詞	心外–外心
名詞・自サ形容動詞		名詞	乱暴–暴乱
名詞・副詞		副詞・名詞・形容詞	年長–長年
副詞・形容動詞		名詞	存外–外存

日本語と中国語の意味が異なる語彙は 157 組で、品詞性が一致するのが 76 組あり、その中の 74 組が名詞で、「照合–合照、戦死–死戦」の２組のみが名詞・動詞である。品詞性が名詞であるものは以下となる。

相生–生相　生花–花生　縁辺–辺縁　皇女–女皇　屋外–外屋　下名–名下　家老–老家

官軍–軍官　眼孔–孔眼　干天–天干　機長–長機　教科–科教　行啓–啓行　口説–説口
君国–国君　軍配–配軍　劇評–評劇　仮病–病仮　検体–体検　高音–音高　虹彩–彩虹
江上–上江　工船–船工　告文–文告　山房–房山　次位–位次　式服–服式　詩情–情詩
実子–子実　銃火–火銃　情火–火情　床机–机床　上皇–皇上　証票–票証　序詞–詞序
水禍–禍水　寸分–分寸　精鋼–鋼精　精糖–糖精　石火–火石　前車–車前　胎内–内胎
地異–異地　地隙–隙地　中震–震中　泥水–水泥　点景–景点　点茶–茶点　典薬–薬典
頭韻–韻頭　道産–産道　頭部–部頭　灯明–明灯　熱低–低熱　年余–余年　煤煙–煙煤
半月–月半　盤台–台盤　風眼–眼風　舞楽–楽舞　文金–金文　別派–派別　片影–影片
母后–后母　野草–草野　溶岩–岩溶　容儀–儀容　羊頭–頭羊　流人–人流　露悪–悪露
楼主–主楼　蠟石–石蠟　和人–人和　水生–生水

5. まとめ

本稿では『岩波国語辞書第七版』と『現代漢語詞典第六版』に記載されている中国語と日本語における字順の相反する二字漢語を抽出し、日中の字順逆転の可能性によって、a. b. c. d. e. f の 6 類に分類した。a は中国語と日本語の両方に逆転現象のあるもの、b は日本語には逆転現象があるが中国語には一方しかないもの、c は中国語には逆転現象があるが日本語には一方しかないもの、d は日本語には両方あるが中国語にはどちらもないもの、e は中国語には両方あるが日本語にはどちらもないもの、f は両方とも一方しかないが字順が逆転するもの。

本稿の研究対象となる f 日本語の漢語が中国語で逆転する二字漢語 346 組を中心に両言語の意味と品詞性の相違を分析してみた。語の意味の異同から、4 類に分類した。S は同義、Oは部分重複、SUは包摂、Dは異義である。その調査結果、Sは 106 組で全体の 31%、Oは 34 組で全体の 10%、SUⅠは 21 組で全体の 6%、SUⅡは 28 組で全体の 8%、Dは 157 組で全体の 45%を占めていることが分かった。

今までの日本語に関する先行研究（鈴木 1986 ; 荒川 1997）の中では、字順が逆になっても、意味にあまり変化がなく、字順だけが逆転した語彙についてのみ説明しており、字順の逆転とあわせて意味も変化した語に関しては言及されていない。本研究の調査結果から見ると、日本語の中における字順の逆転現象と違い、日本語と中国語の間での字順が逆転する場合、両語が同義ではなくなる語彙が多数あり、意味が大きく変わると言えよう。字順の逆転とともに、意味の変化も起こった語が多いことは明らかである。

中国語と日本語両言語における字順の逆転現象に関する先行研究が少なく、参考となるデータ自体が不足している分野である。本研究により、今後の研究を進める上でのデータを提供することができれば幸いである。

参考文献

荒川清秀（1978）「日中両国語における漢字」『愛知大学文学論叢』第１輯
――（1979）「中国語と漢語–文化庁『中国語と対応する漢語』の評を兼ねて」『愛知大学文学論叢』第62輯
――（1986）「現代日本語に於ける漢字の意味」『日本語と中国語の対照研究』第11号
――（1988）「複合漢語の日中比較」『日本語学』5月号、pp. 55–67
――（1997）『近代日中学術用語の形成と伝播–地理学用語を中心に–』白帝社
沈国威（1990）「V+N」構造の二字漢語名詞について—動詞語基による装定の問題を中心に、言語交渉の視点から—」『国語学』160、 pp. 124–134　日本書房
――（1993）「現代中国語における日本製漢語」『日本語学』7月号、pp. 41–49　明治書院
――（1994）『近代日中語彙交流史』笠間書院
鈴木丹士郎（1978）「二字漢語の字序について」『国語表現論叢』pp. 239–245 明治図書
――（1981）「『抵抗』と『抗抵』」『国語語彙史の研究』2、pp. 237–254 和泉書院
――（1986）「二字漢語の字順についての問題」『国語論究Ⅰ　語彙の研究』pp. 278–298 明治書院
――（2011）「『西国立志編』の逆字順二字漢語」『国語研究』（50）pp. 318–301 東北大学大学院文学研究科国語学研究室「国語学研究」刊行会
鈴木修次（1978）『漢語と日本人』　みすず書房
竹中憲一（1988）「中国語と日本語における字順の逆転現象」『日本語学』10月号、 pp. 55–64 明治書院
田島優（1985）「字順の相反する二字熟語」『名古屋大学人文科学研究』第14号、pp. 1–18 名古屋大学大学院文学研究科
陳力衛（2001）『和製漢語の形成とその展開』汲古書院
――（2001）「和製漢語と語構成」『日本語学』8月号、pp. 353–375　明治書院
――（2004）「日中両国語における漢字の意味の相違について」『日本語教育学の視点』東京堂出版
――（2012）「和製漢語と中国語」お茶の水女子大学比較日本学教育研究センター研究年報　pp. 217–222
中川正之（1992）「漢語の語構成」『日本語と中国語の対照研究論文集（下）』pp. 129–144 くろしお出版
野村雅昭（1988a）『漢字の未来』筑摩書房
――（1988b）「二字漢語の構造」『日本語学』5月号、pp. 44–55 明治書院
――（1998c）「結合専用形態の複合字音語基」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』11、149–162
――(1999)「語彙調査データによる基本漢語の抽出」早稲田大学日本語研究教育セン

ター紀要 12、21-54
野村雅昭・山下喜代（1993）「日本語教育のための漢字・漢語データベース」『講座日本語教育』　pp. 142-156
文化庁（1978）『日本語教育研究資料　中国語と対応する漢語』大蔵省印刷局
李愛華（2006）「中国人日本語学習者による漢語の意味習得―日中同形語を対象に」『つくば大学　地域研究』
李軍（2011）「『反義複合語』を用いた漢字語彙指導の開発–漢字熟語の字順法則を探る」『全国大学国語教育学会発表要旨集』121、pp. 17-20

参考辞書

西尾実・岩淵悦太郎・水谷静夫（2011）『岩波国語辞典』第７版新版　岩波書店
金田一京助・佐伯梅友・大石初太郎・野村雅昭（2012）『新選国語辞典』第９版小学館
中国社会科学院語言研究所詞典編輯室（2012）『現代漢語詞典』第６版　商務印書館

謝辞

本稿の執筆にあたり、指導教員である浅川哲也先生からたくさんのご指導を頂きました。心から感謝申し上げます。

（ま　ゆん・首都大学東京大学院博士前期課程）